



LEICA M6

取扱説明書

はじめに

お客様へ

このたびはライカ M6をお買い上げいただき誠にありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、未永くご愛用ください。本製品について詳しくは、<https://M6.leica-camera.com>をご覧ください。

ライカカメラジャパン株式会社

付属品

カメラをご使用になる前に、下記の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

- ライカ M6
- ボディキャップ
- キャリングストラップ
- クイックスタートガイド
- 会員メンバー案内
- リチウム電池 (DL1/3N 3V)
- 電池スロットカバー (溝付き)
- 検査証明書

本書で説明する製品のデザインや仕様などは予告なく変更される場合があります。

スペアアクセサリ/アクセサリ

スペアアクセサリ、アクセサリに関して、詳しくはライカのホームページをご覧ください。

<https://leica-camera.com/ja-JP/photography/accessories>

本書またはライカで指定したアクセサリ以外は使用しないでください。
指定された以外のアクセサリを使用すると、故障や事故の原因となります。

本製品使用時の事故や怪我、または故障を防ぎ、各種リスクを軽減するため、本製品をお使いになる前に、「法律に関する事項」、「注意事項」、「本製品の取り扱いについて」を必ずお読みください。

法律に関する事項

著作権について

カメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気をつけください。

本書について

著作権

著作権はライカカメラAGが保有しています。

本書内のすべてのテキスト・画像・グラフィックは知的財産の保護に関する著作権法およびその他の法律の対象となります。ライカカメラAGの許可なく取扱説明書の内容の一部または全部を複製、改変、商業的に使用または転載することを禁じます。

テクニカルデータ

製品およびサービスの変更が行われることがあります。ライカカメラAGは必要な場合に限り、デザイン・形状・カラー等の変更、付属品またはサービス内容の変更を行う権利を留保します。ライカカメラAGは、テキスト内容等に間違いがある場合など、その内容を変更する権利を留保します。画像には、付属品に含まれていないアクセサリや、サービス範囲外のアイテム等が含まれている場合があります。国によっては使用できない機能やサービスについて記載されている場合があります。

商標・ロゴマーク

本書で使用されている商標・ロゴマークは、登録商標です。ライカカメラAGの事前承諾なしに、これらの商標・ロゴマークを使用することを禁止します。

ライセンス

ライカカメラAGは常によりよいものを提供したいと考えています。本書はライカカメラAGの著作権、特許権、商標権等の知的財産権に基づきいかなる権利をも許諾もしくは付与するものではありません。皆様のご理解をお願いいたします。

カメラ情報について

本製品の製造日は、製品パッケージに貼付しています。

表示形式：年/月/日

CEマーク

本製品に貼付されているCEマークは、EC指令に適合していることを示しています。

電気・電子機器の廃棄について

(EU諸国および分別廃棄を実施するその他のヨーロッパ諸国のみ)



この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住まいの自治体のリサイクル協力店にご相談ください。

回収は無料となっています。電池や充電電池を使用する装置を廃棄する場合は、電池や充電電池を取り外してから回収場所にお持ちいただくか、必要に応じてお住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

廃棄についての詳しい情報は、お住まいの自治体、お近くの廃棄物回収業者、またはご購入店にお問い合わせください。

注意事項

一般的な取り扱いについて

- 小さな付属品（電池スロットカバーなど）を保管するときは、次の点にお気をつけください。
 - 乳幼児の手の届くところに置かない。
 - 製品パッケージの所定の位置など、紛失しない場所に保管する。
- 電子機器は、人体に帯電した静電気の影響で不具合を起こす場合があります。合成繊維のカーペットの上を歩くなどすると、人体に大量の静電気が帯電します。導電性があるものの上に本製品が置かれていた場合は、本製品に触れると静電気放電がおこります。静電気が電子回路内に入らなければ、問題ありません。本製品は安全回路を装備していますが、安全のためアクセサリシューなどの端子部には手を触れないでください。
- 端子部をお手入れする際は、綿やリネンの布をご使用ください。レンズ用のマイクロファイバークロス（合成繊維）は使用しないでください。お手入れの前には、水道管などに触れて静電気を放電してください。また、端子部の汚れやさびつきを防ぐために、レンズキャップやアクセサリシューカバーを取り付けて、乾いた場所で保管してください。
- 指定されたアクセサリ以外は使用しないでください。故障、感電、ショートの原因になります。
- 本製品を分解・改造しないでください。修理は、ライカ指定のサービスセンターにて専門の修理担当者にご依頼ください。
- 殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、軽油、シンナー、アルコールも使用しないでください。薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり、表面の加工が剥離することがあります。
- ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触させたままにしないでください。
- 雨や雪の中、または浜辺などで使用するときは、内部に水滴や砂、ほこりなどが入り込まないようにお気をつけください。レンズ交換やフィルムの出し入れの際は特にお気をつけください。砂やほこりが入り込むと、本製品、レンズの故障・破損の原因となります。水滴が入り込むと、正常に動作しなくなったり、修理できなくなることがあります。

レンズ

- レンズの正面に強い太陽光が当たると、レンズがルーペと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用により内部が破損しますので、レンズを保護せず強い太陽光に向けたまま放置しないでください。
- レンズキャップを取り付け、日陰に置く、またはケースに収納するなど、強い太陽光が当たらないようにしてください。

電池

- 指定以外の電池を使用したり、本書の説明に従わずに使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電池を直射日光の当たる場所、高温多湿の場所、濡れた場所に放置しないでください。また、電子レンジや高圧容器に入れないでください。破裂や発火の原因となります。
- 破損した電池を使用すると、カメラが故障するおそれがあります。
- 電池の使用中に、異臭、変色、変形、発熱、漏液などの異常に気づいた場合は、カメラから直ちに取出してください。そのまま使用や充電を続けると過熱して、破裂や発火の原因となります。
- 電池は絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。
- 電池が漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液に引火するおそれがあります。
- 電池は乳幼児の手の届かないところに置いてください。電池を誤って飲み込んでしまった場合、窒息のおそれがあります。また、重篤な内蔵損傷や死亡の原因になることがあります。
- お子さまがボタン電池を飲み込んだり、誤飲したりした疑いがある場合は、すぐに救急医に連絡してください。
- 定期的に本製品を点検し、電池スロットカバーが正しく固定されていることを確認してください。電池スロットカバーが正しく固定されていない場合は、製品を使用しないでください。
- 使用済みの電池は即正しく廃棄し、乳幼児の手の届くところに置かないでください。使用済みの電池も危険であることに変わりはありません。

バッテリーから漏れた液が人体などに付着した場合の処置

- ・ 液が目に入ると失明の原因となることがあります。目をこすらず、直ちにきれいな水でよく洗い流し、医師の診察を受けてください。
- ・ 液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に傷害を起こすおそれがあります。直ちにきれいな水でよく洗い流してください。

キャリングストラップ

- ・ キャリングストラップは丈夫な材質によって作られています。乳幼児の手の届かないところに保管してください。首に巻きつくなど、事故につながるおそれがあります。
- ・ キャリングストラップは、カメラまたは双眼鏡を持ち運ぶ目的でのみご使用ください。傷害の原因となる可能性があるため、他の用途では絶対に使用しないでください。
- ・ キャリングストラップが引っかかり、首が絞まるおそれがあり危険なため、登山やアウトドアスポーツの際には使用しないでください。

三脚

- ・ 三脚を使用するときは、三脚の強度をご確認の上、カメラ本体ではなく三脚の方を回して取り付けてください。三脚を取り付ける際は、三脚のねじを回しすぎたり、無理な力を加えないようご注意ください。また、カメラを三脚に取り付けたまま持ち運ばないでください。他人を傷つけたりカメラを破損するおそれがあります。

フラッシュ

- ・ 本機に対応していないフラッシュユニットを使用した場合、カメラおよびフラッシュユニットが破損するおそれがありますので、使用前に必ずご確認ください。

本製品の取り扱いについて

その他、詳しくは「お手入れ/保管」をご参照ください。

カメラ/レンズ

- カメラとレンズのシリアルナンバーは、紛失・盗難の際に重要となりますので、書き写して大切に保管してください。
- カメラのシリアルナンバーは、機種によってホットシューまたはカメラ底面に刻印されています。
- カメラの内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、カメラには常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- レンズ交換は、ゴミやほこりの少ない場所ですばやく行ってください。
- ボディキャップやレンズリアキャップを衣類のポケットに入れたままにしないでください。ポケット内側のほこりが付着し、カメラやレンズに取り付けた際に内部にほこりが入り込むことがあります。

電池

- カメラを長期間使用しない場合は、電池をカメラから取り出してください。
- 破損した電池は、廃棄規則に従って適切なリサイクル回収場所にお持ちください。
- 電池表面が酸化した場合は回路が断線し、LEDが消灯することがあります。この際は電池を取り出し、清潔な布で汚れを取り除いてください。必要に応じて、カメラ内の接点等も清掃する必要があります。

フィルム

- フィルム感度ダイヤルが使用するフィルムのISO値と同じに設定されているか確認してください。
- 撮影後（露光した）のフィルムはすぐに現像してください。

保証

販売店に対するお客様の法律に基づく保証の請求権は、ライカ正規販売店で本製品をお買い上げいただいた日から発生します。以前、保証規約/保証書は付属品として製品に同梱されていましたが、この度、オンラインでの提供サービスが開始されました。これにより、いつでも簡単に保証内容等の確認ができます。このオンラインサービスは、保証規約/保証書が付属品として同梱されていない製品にのみ有効です。保証規約/保証書が製品に同梱されている場合は、それらが適用されます。保証の適用範囲、保証内容、制限事項に関して詳しくは、ホームページ (<https://warranty.leica-camera.com>) にてご確認ください。

目次

はじめに	2	巻き戻し解除レバー	24
付属品	2	フレームセクター	25
スペアアクセサリー/アクセサリー	3	フィルムの交換	25
法律に関する事項	4	カメラを開ける/閉じる	26
注意事項	6	シャッターをチャージする (撮影可能状態にする)	27
本製品の取り扱いについて	8	フィルムを巻き戻す	27
保証	9	フィルムを取り出す	28
目次	10	フィルムを装填する	28
各部名称	12	フィルムカウンターに「1」と表示されるまでフィルムを巻き上げる	29
表示	16	撮影モード	30
使用前の準備	18	ISO感度	30
チャリングストラップを取り付ける	18	構図を決める	31
電池を入れる/取り出す	18	撮影範囲 (フライトフレーム)	31
レンズ	19	ヒント合わせ	33
対応レンズ	19	二重像合致式	33
使用制限があるが、装着できるレンズ	19	スプリットイメージ方式	33
対応していないレンズ	19	露出	34
レンズを交換する	20	測光方式	34
視度調整	21	露出計	35
基本的な操作・設定	22	露出設定	35
各種ボタン/ダイヤル	22	露出情報	35
シャッターボタン	22	露出設定の難しい被写体	36
シャッタースピードダイヤル	22	特に明るい又は暗い被写体	36
フィルム感度ダイヤル	23	コントラストの強い被写体	37
巻き上げレバー	23	バルブ撮影 (B)	37
フィルム巻き戻しクランク	24	フラッシュ撮影	38
		対応フラッシュユニット	38
		フラッシュユニットを接続する	39
		お手入れ/保管	40
		索引	42
		テクニカルデータ	44

ライカ カスタマーケア	48
ライカ デジタルサポートセンター	48
ライカ アカデミー	49

本文中の説明について

メモ

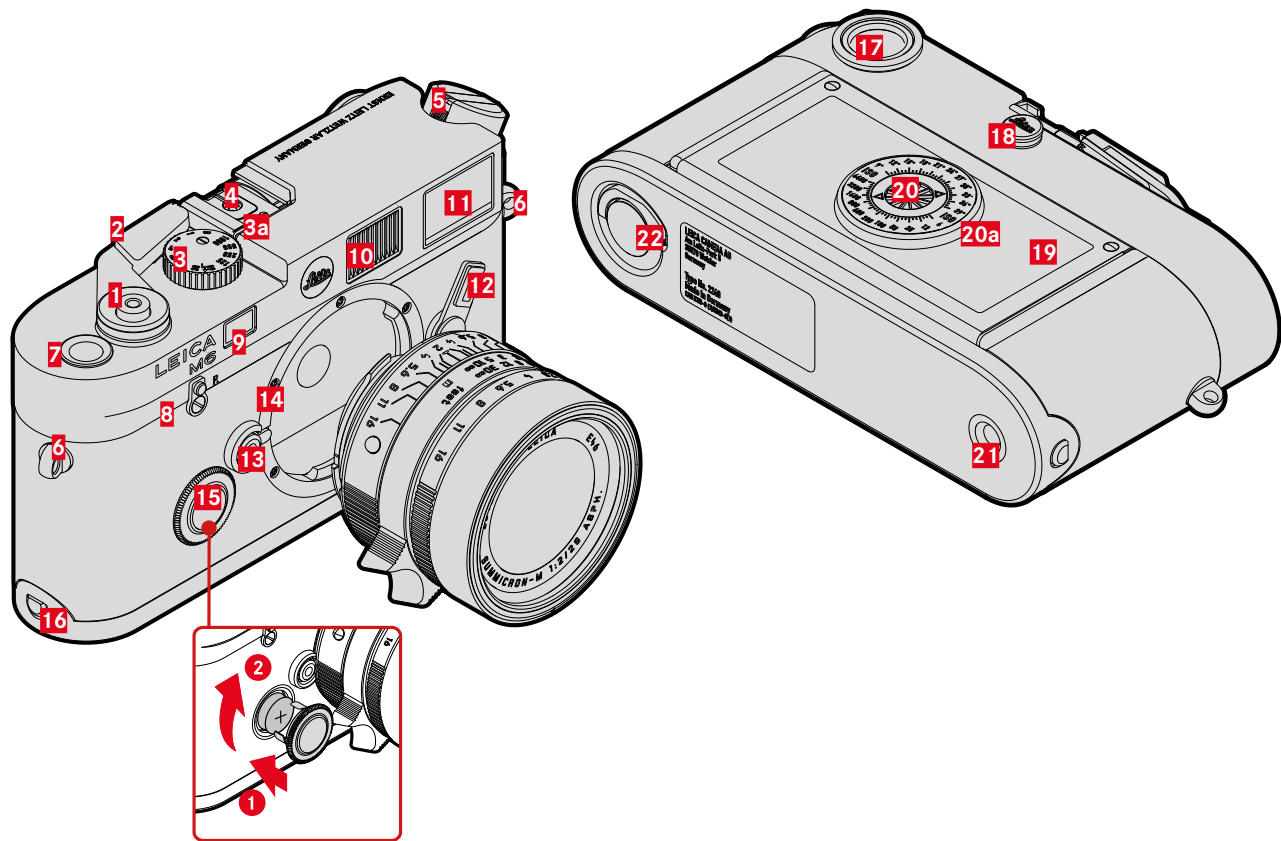
補足的な説明や情報を記載しています。

注意

この内容を守らず誤った取り扱いをすると、カメラ本体やアクセサリーの故障、画像データ破損のおそれがあります。

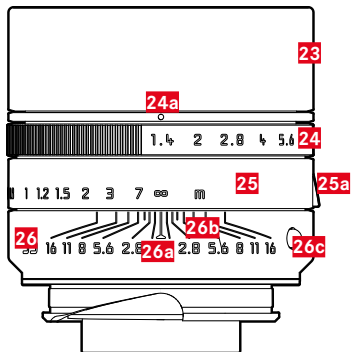
警告

この内容を守らず誤った取り扱いをすると、重傷を負うおそれがあります。



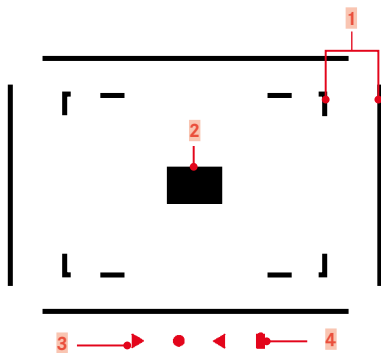
LEICA M6

- 1 シャッターボタン
- 2 巻き上げレバー
- 3 シャッタースピードダイヤル (クリックストップ付き)
- a シャッタースピード指標
- 4 ホットシュー
- 5 フィルム巻き戻しクランク
- 6 ストラップ取り付け部
- 7 フィルムカウンター
- 8 巻き戻し解除レバー
- 9 距離計窓
- 10 ブライトフレーム採光窓
- 11 ファインダー
- 12 フレームセクター
- 13 レンズ着脱ボタン
- 14 ライカ Mマウント
- 15 電池スロット (カバー付き)
- 16 底蓋固定ピン
- 17 ファインダー
- 18 ケーブル付きフラッシュユニット用シンクロナソケット
- 19 裏ぶた (開閉式)
- 20 フィルム感度ダイヤル
- a スケール
- 21 三脚用ねじ穴 A 1/4 (1/4インチ、DIN 4503に準拠)
- 22 底蓋開閉つまみ



- 23 レンズフード
- 24 絞りリング (目盛付き)
 - a 絞り指標
- 25 フォーカスリング
 - a 指当て
- 26 固定リング
 - a フォーカシング指標
 - b 被写界深度目盛
 - c レンズ着脱指標

* 同梱されていません。図は一例です。レンズによって、仕様が異なります。



1 ブライトフレーム

2 フォーカシングエリア

3 LED表示



- 露出レベルの調整 (三角形のLEDは、適正露出を得るためのシャッター
スピードダイヤル/絞りリングを回す方向)

- 警告表示 (測光範囲の露出が、測光可能範囲以下の場合)
(左側の三角形のLED)

4 バッテリーランプ (警告灯)

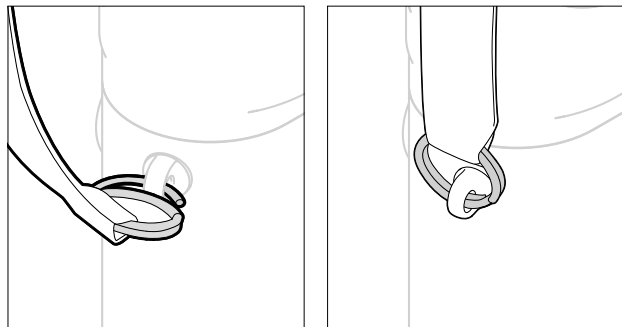
バッテリーランプ (警告灯)

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にバッテリーランプが表示され、電池残量を確認することができます。

表示	電池残量	
	露出レベルのみが点灯	電池の残量が十分。
	露出レベル+電池型LEDが点灯	そろそろ電池の交換が必要です。正確な測光はまだ可能です。
	電池型LEDのみが点灯 (もしくは何も表示されない場合)	電池を交換してください。

使用前の準備

キャリングストラップを取り付ける



警告

- カメラの落下を防ぐため、キャリングストラップがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

電池を入れる/取り出す

本機では測光に酸化銀ボタン電池 (PX76/SR44) 2個、またはリチウム電池 (DL1/3N) 1個が必要です。

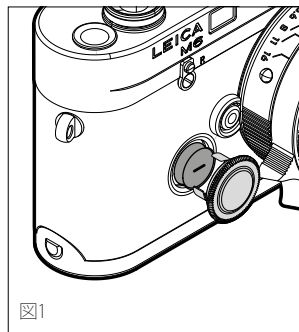


図1

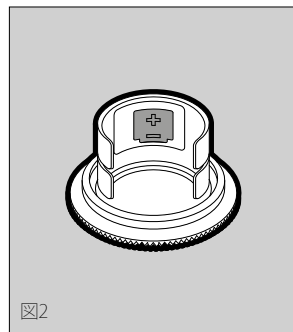


図2

- ▶ 電池スロットカバーを反時計回りに回して外す。
 - 国によっては、カバーの開閉に工具 (マイナスドライバー、コインなど) が必要な場合があります。
- ▶ 電池は、プラス極を上向きにカバーのホルダーに入れる、またはホルダーから取り出す (図2)。
 - 汚れやサビ等がある場合は、まず拭き取ってください。
- ▶ カバーを電池スロットに真っ直ぐに取り付ける。
- ▶ カバーを時計回りに回して固定する。

メモ

- 必ず正しくカバーが取り付けられているか確認してください。

レンズ

対応レンズ

ライカMレンズ

6ビットコードの有無に関わらず、ほぼすべてのライカMレンズを使用できます。使用に制限のあるレンズに関しては、次の項目をご参照ください。

メモ

- ・ Mレンズは、焦点距離の情報をカメラに送ることのできるコントロールカムを搭載しており、ライカMカメラのレンジファインダーでのマニュアルフォーカスが可能です。明るいレンズ (≤ 1.4) でレンジファインダーを使用するときは、以下のことにお気をつけください：
 - 各カメラやレンズのフォーカシングシステムは、本社工場にて厳密に調整されています。どのカメラとレンズの組み合わせでも撮影の際に精密にピントを合わせることができるよう、厳しく審査されています。
 - 明るいレンズ (≤ 1.4) を絞り開放で使用すると、極度に浅い被写界深度になるため、レンジファインダーでの焦点調整が正確にできないことがあります。これは、カメラとレンズの組み合わせから生じるもので、組み合わせによっては偏差の発生は避けられません。
 - ある一定方向の焦点位置に偏差が出る場合は、カメラとレンズを、ライカカスタマーケアにて検査していただくことをおすすめします。カスタマーケアにて両製品が許容される総公差内に調整されているかを確認することができます。カメラとレンズの組み合わせによっては、焦点位置が100%合わないこともありますので、ご了承ください。

使用制限があるが、装着できるレンズ

使用できるが、カメラまたはレンズ自体が破損するおそれのあるレンズ

- 沈胴式レンズは、伸張させた状態でのみ使用できます。絶対に沈胴させないでください。ただし、現行のマクロ・エルマー M 90 f/4は沈胴させても問題なく使用できます。
- ノクティルックス 50 f/0.95、アダプター装着時のRレンズなど重いレンズを使用する時は、三脚の使用をおすすめします。三脚雲台の傾きを調整する際は、必ずカメラをしっかりと押さえてください。抑えていない場合は、雲台が突然下限まで傾き、パヨネットが傷つくおそれがあります。また、そのような事故を防ぐため、レンズも必ず三脚に固定してください。

対応しているが、ピント合わせが制限されるレンズ

本機の距離計は高精度ですが、135mmレンズを絞り開放で使用する場合は、被写界深度がきわめて浅くなるため、厳密にピントを合わせられないことがあります。そのような場合は、絞りを2段階絞ってピントを合わせて調整することをおすすめします。

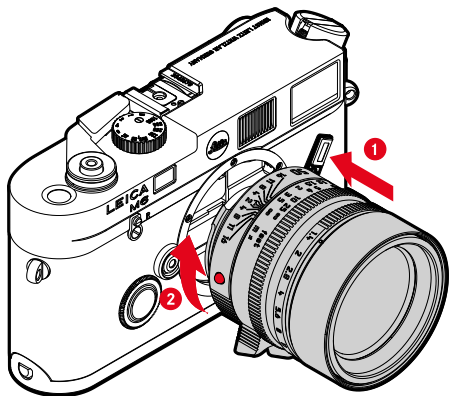
対応していないレンズ

- ホロゴン 15 f/8
- ズミクロン 50 f/2 (近接撮影用レンズ)
- エルマー 90 f/4 (沈胴式、製造年1954-1968)
- ズミルックス M 35 f/1.4 (非球面レンズ不採用、生産期間1961~1995年、カナダ製) は、ごくまれに装着できないか、フォーカスを無限遠まで合わせられないものがあります。そのような場合は、ライカカスタマーケアにお問い合わせください。本機で使用できるよう、改造を行っております。

レンズを交換する

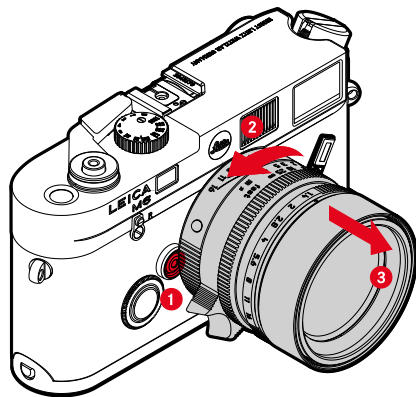
ライカMレンズ

取り付ける



- ▶ 固定リングに指をそえてレンズを持つ。
- ▶ レンズ着脱指標とカメラのレンズ着脱ボタンの位置を合わせる。
- ▶ レンズをはめ込む。
- ▶ 「カチッ」と音がするまでレンズを矢印2の方向に回す。

取り外す



- ▶ 固定リングに指をそえてレンズを持つ。
- ▶ カメラのレンズ着脱ボタンを押したまま、レンズ着脱指標とレンズ着脱ボタンの位置が合うまで矢印3の方向に回す。
- ▶ レンズをまっすぐ取り外す。

注意

- カメラの内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、カメラには常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- レンズ交換は、ゴミやほこりの少ない場所ですばやく行ってください。
- フィルムを入れた状態でレンズ交換する場合は、シャッター部から感光しない様、開口部を直射日光の方向に向けず、体で影を作るなどして行ってください。



視度調整

眼鏡なしでも快適に撮影できるように、視力に合わせてファインダーの視度を±3 dptの範囲で調整できます。

調整にはレンジファインダーに取り付ける視度補正レンズ（別売り）が必要です。

- ▶ 視度補正レンズをファインダーに取り付ける。
- ▶ 時計回りにしめる。

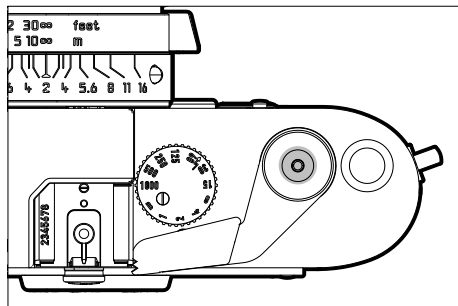
メモ

- ・ 視度調整レンズの種類等、ホームページ (<https://store.leica-camera.com>) をご覧ください。
- ・ M型カメラのファインダーの視度は平均的な-0.5 dptに設定されています。
+1.0 dptのメガネをご使用の方は+1.5 dptの補正レンズが必要となります。

基本的な操作・設定

各種ボタン/ダイヤル

シャッターボタン



シャッターボタンの作動ポイントは2段階です。

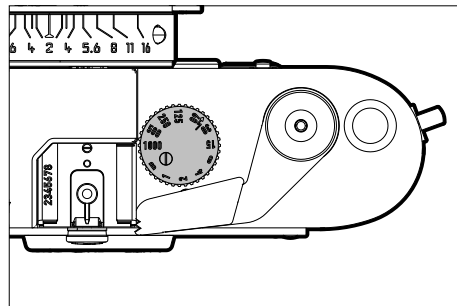
1. **半押し** (最初の作動ポイントまで軽く押し)
 - 露出計を起動
2. **全押し**
 - 撮影

メモ

- ・ プレを防ぐため、シャッターボタンは強く押さず、そっと押し込んでください。
- ・ フィルムがしっかりと巻き上げられていない場合はシャッターは切れません。
- ・ シャッターボタンには標準ケーブルレリーズ用ねじ穴が装備されています。

シャッタースピードダイヤル

シャッタースピードダイヤルには1/1000秒 (1000) からバルブ撮影 (B) まで刻印されていて、その全ての値 (クリックストップ) に設定できます。クリックストップ以外の中間値は使用できません。詳しくは、「露出」(p.34) をご参照ください。

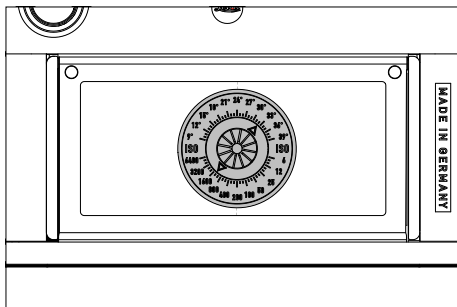


- **1000 - 1**: ダイヤル上に示された1/1000秒～1秒の値
- **B**: 長時間露光 (バルブ撮影)、露出計オフ
- **⚡**: フラッシュ同調速度フラッシュモードにおける可能な最短同調速度 (1/50秒)

メモ

- ・ バッグなどに入れて持ち運ぶ場合や、長時間使用しない場合などは、シャッタースピードダイヤルを **B** にセットすることで誤って露出計を起動させることを防ぎ、電池を長持ちさせることができます。

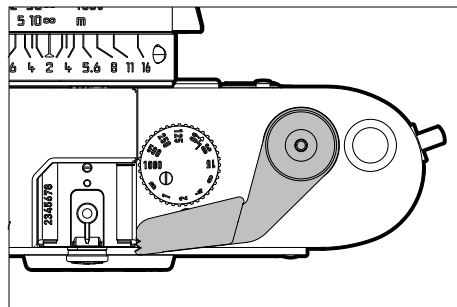
フィルム感度ダイヤル



露出計は設定されたISO感度によって露出を算出するため、使用のフィルムの感度と同じ数値にカメラを設定する必要があります。ダイヤル上の指標値（クリックストップ箇所）にのみ設定できます。感度はISO値と度数で示されています。本製品で設定できるフィルム感度はISO 6/9°～ISO 6400/39°です。

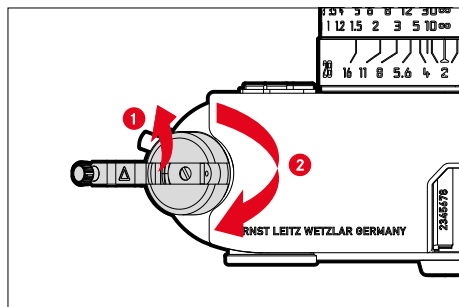
- ▶ フィルム感度ダイヤルを回して、装填したフィルムの感度と同じ数値に指標を合わせる。
 - ・ダイヤルは常に対応するISO値と度数（DIN規格）を示します。

巻き上げレバー



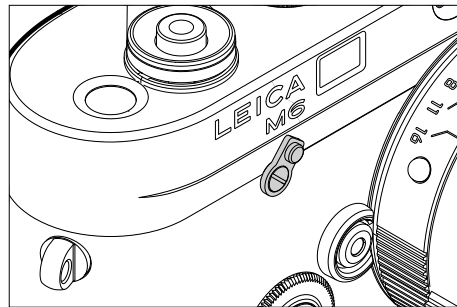
- フィルムを1コマ送る
- シャッターをチャージする（撮影可能状態にする）

フィルム巻き戻しクランク

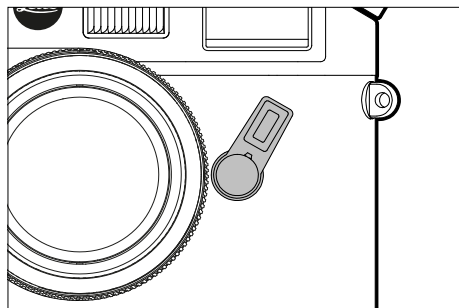


- フィルムをパトローネに巻き戻す

巻き戻し解除レバー



フレームセクター



- 使用レンズ以外のブライトフレームを一時的に表示する

フィルムの交換

フィルムをすべて撮影し終わると、巻き上げレバーが動かなくなります。

フィルムを交換するには

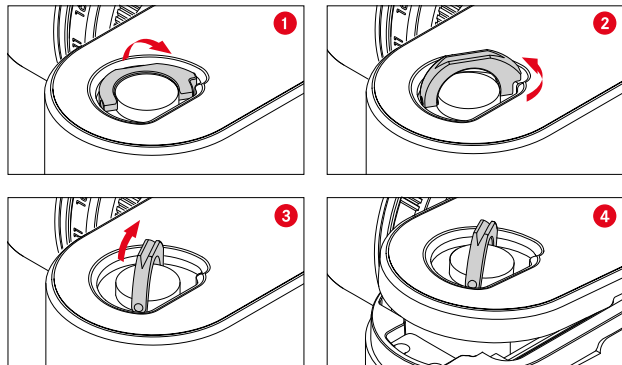
- ▶ 撮影済み（露光済み）のフィルムを巻き戻す(p.27)
- ▶ 撮影済みのフィルムを取り出す(p.28)
- ▶ 新しいフィルムを入れる(p.28)
- ▶ フィルムカウンターに「1」と表示されるまでフィルムを巻き上げる(p.29)

注意

- ・ パトローネを取り出す前にはフィルムが完全に巻き戻っているかを確認してください。完全に巻き戻ってない状態で裏ぶたを開けると、フィルムが感光して白くなってしまいます。

カメラを開ける/閉じる

開ける

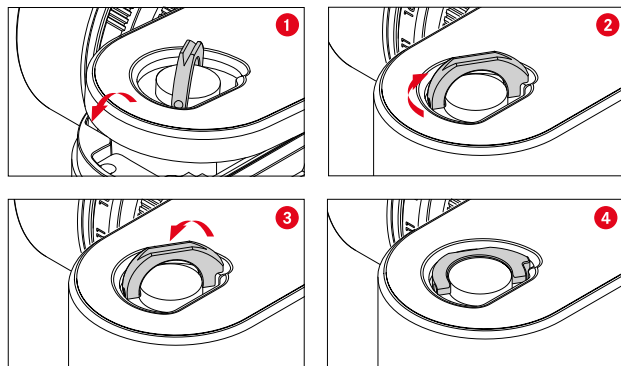


- ▶ 底蓋を上にして本製品を持つ。
- ▶ 開閉つまみを起こす。
- ▶ 開閉つまみを反時計回りに回す。
- ▶ 底蓋を取り外す。
- ▶ 裏ぶたを開ける。

メモ

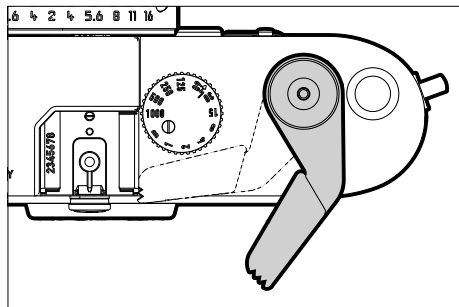
- ・ 底蓋を開けるとフィルムカウンターは自動的に0（ゼロ）にリセットされます。

閉じる



- ▶ 底蓋を上にして本製品を持つ。
- ▶ 裏ぶたを閉じる。
- ▶ 底蓋を本体側面の固定ピンに合わせる。
- ▶ 底蓋を閉じる
 - ・ 裏ぶたはしっかりと底蓋内に収まるよう閉まっているか確認してください。
- ▶ 底蓋開閉つまみを時計回りに回す。
- ▶ 開閉つまみをたおして、元の位置に戻す。
- ▶ 底蓋が完全に閉まっていることを確認する。

シャッターをチャージする（撮影可能状態にする）



巻き上げレバーを回すと、フィルムが1コマ送られて、シャッターがチャージされ、フィルムカウンターが自動的に1目盛進みます。

シャッターをチャージするには

- ▶ 巻き上げレバーを右へ止まるまで回す。

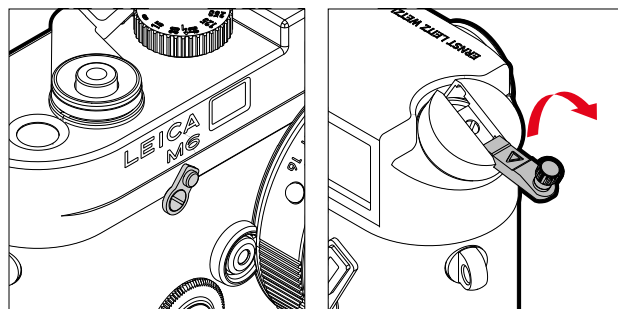
または

- ▶ 巻き上げレバーを小刻みに右へ止まるまで回す。

メモ

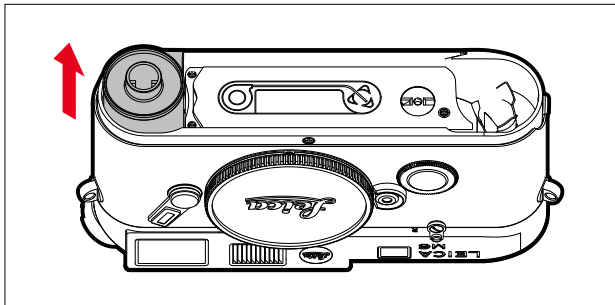
- 巻き上げレバーを予備位置まで引き出しておくと、フィルムを素早く巻き上げることができます。撮影終了時には必ずシャッタースピードダイヤルまで戻してください。
- フィルムが装填されていない場合でも、巻き上げレバーを回す度にフィルムカウンターはカウントし続けます。

フィルムを巻き戻す



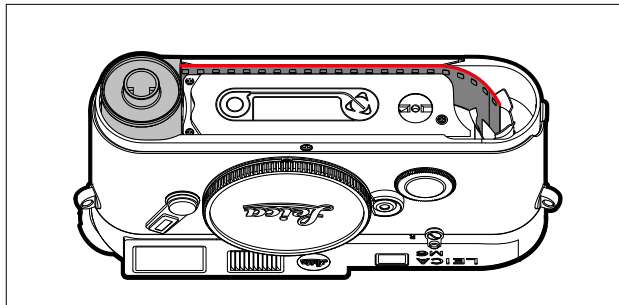
- ▶ 巻き戻し解除レバーをRの位置に合わせる。
- ▶ フィルム巻き戻しクランのレバーを立てる。
- ▶ フィルム巻き戻しクランを時計回りに回す。
 - 巻き戻しの感覚・手ごたえを確かめながら回し続けると、いきなり軽くなります。巻き戻し終了の合図です。
- ▶ フィルム巻き戻しクランをさらに何度か回す。
- ▶ フィルム巻き戻しクランのレバーを折りたたんで元の位置に戻す。
- ▶ 巻き戻し解除レバーを垂直になるように戻す。

フィルムを取り出す



- ▶ 底蓋を上にして本製品を持つ。
- ▶ カメラを開ける (p.26)。
- ▶ フィルムをまっすぐに取り出す。
- ▶ フィルムを冷暗所に保管する。

フィルムを装填する



- ▶ 底蓋を上にして本製品を持つ。
- ▶ カメラを開ける (p.26)。
- ▶ フィルム室にフィルム/パトローネを半分ほど入れる。
- ▶ フィルムを少し引き出し、巻き取りスプールに差し込む。
 - カメラ内のフィルム装填の図に従って、フィルム先端が巻き取り軸の溝に正しく入っているか確認してください。
- ▶ パトローネとフィルム先端を慎重にセットする。
- ▶ カメラを閉じる。

注意

- ・ 本機は底蓋を閉めた際にフィルムが正しく装填されるように設計されています。カメラを開けた状態でフィルム送りを確認しないでください。
- ・ また裏ぶた内側とカメラ内部には感光度設定用の接点があります。決して汚したり、(雨水などで)濡れたりしないようお気を付けください。

メモ

- ・ 既製品のフィルムは必ず先端部が細くなっています。
- ・ フィルムの先端部を引き出しすぎた場合でも、巻き取りスプールから少しはみ出した程度であれば支障をきたすことはありません。ただし、気温が0℃を下回る状況では、フィルムの先端が巻き取りスプールからはみ出してしまふと、その部分が凍って折れてしまう恐れがありますのでフィルム装填の図に従って正しく装填してください。

フィルムカウンターに「1」と表示されるまでフィルムを巻き上げる

- ▶ 巻き上げレバーを回す。
- ▶ シャッターを切る。
- ▶ 巻き上げレバーをもう一度回す。
 - ・ 巻き上げに連動して、巻き戻しクランクがまわっていたら成功です。
- ▶ もう一度シャッターを切る。
- ▶ 巻き上げレバーをさらにもう一度回す。
 - ・ フィルムカウンターに「1」と表示されます。
 - ・ 撮影準備完了です。



撮影モード

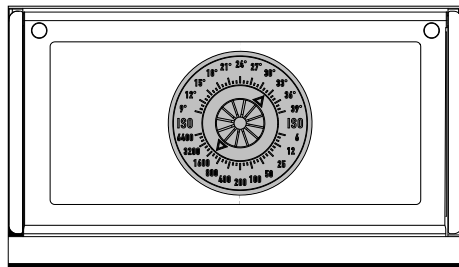
- ▶ 装填したフィルムの感度がフィルム感度ダイヤルで設定されているか確認する。
- ▶ 必要に応じて巻き上げレバーを回す (p.31)
- ▶ 撮影範囲を定める (p.31)
- ▶ シャッターボタンを半押しする。
 - ・ 露出計が起動し、露出インジケータがレンジファインダーに表示されます。露出計は手を離れた後も約14秒間作動したままです。露出インジケータも表示されたままです。
- ▶ 適正な露出を決定する(p.35)。
 - ・ 中央重点測光のため、必要に応じて構図を変えて新たに測光し、露出値を補正してください(p.36)。
- ▶ 希望するシャッタースピードと絞り値を設定する。
 - ・ 適正露出に加え、被写界深度や動きなどを考慮する必要があります。
- ▶ フォーカスリングを回してピントを合わせる。
 - ・ 測距枠が画面中央の為、必要に応じて構図を変えて下さい。
- ▶ 撮影構図を決める。
- ▶ シャッターを切る。
 - ・ 露出計も露出インジケータの表示もオフになります。

ISO感度

フィルム感度を選ぶときは、想定される撮影シーンと使用目的の両方を考慮する必要があります。

- ISOの数字が小さくなるほど感度が低く、暗いところでの撮影が難しいですが、画質が良くなります。
- ISOの数字が大きくなるほど感度が高く、光量の少ない場所での撮影や、スポーツ撮影など、より速いシャッタースピードでの撮影が可能です。

露出計は設定されたISO感度によって露出を算出するため、使用のフィルムの感度と同じ数値にフィルム感度ダイヤルを設定する必要があります。感度はISO値と度数で示されています。本製品で設定できるフィルム感度はISO 6/9° ~ISO 6400/39° です。



- ▶ フィルム感度ダイヤルを回して、装填したフィルムの感度と同じ数値に指標を合わせる。
 - ・ ダイヤルは常に対応するISO値と度数 (DIN規格) を示します。

構図を決める

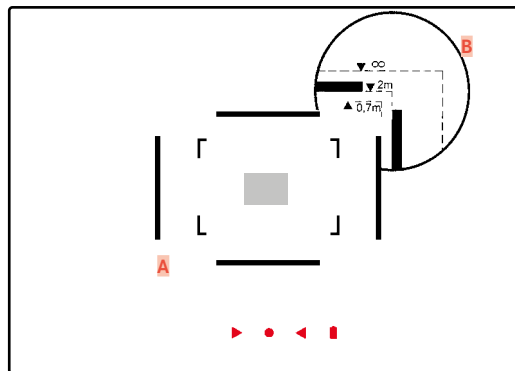
撮影範囲 (ブライトフレーム)

本機のブライトフレームファインダーは、明るく鮮やかに表示することができる高性能な大型ファインダーで、レンズに合わせて高精度の距離計が機能する距離計連動式です。距離計と連動するレンズは、焦点距離が16~135 mmのすべてのレンズです。ファインダー倍率は0.72倍です。

ブライトフレームはフォーカシング機構と連動しており、パララックス (レンズとファインダーの光軸のズレ) は自動的に補正されます。

ブライトフレームのサイズは各焦点距離の最短撮影距離において、23x35mm (スライドフォーマット) の画面サイズに一致します。

撮影距離が2mより短くなると、撮影される範囲はブライトフレームの内側の辺で示される範囲よりもわずかに狭くなります。撮影距離が2mより長くなると、ブライトフレームの外側の辺で示される範囲よりもわずかに広がります (次ページの図をご参照ください)。これらのわずかな差異は、レンジファインダーカメラでは、使用レンズの画角に合ったブライトフレームを表示する必要があります。しかし、ピント合わせに応じてレンズの繰り出し量 (光学系と撮像面との距離) が変わること、レンズの画角もわずかに変わります。撮影距離が近い (レンズの繰り出し量が大きい) ときは画角が小さくなり、実際に撮影される範囲も狭くなります。また、焦点距離が長いレンズほど繰り出し量が大きくなるため、画角の変化も大きくなります。



ブライトフレームの表示範囲と撮影範囲 (50mmレンズ使用時)

A	ブライトフレーム
B	撮影範囲 (拡大図)
0.7m	ブライトフレームの幅で約1つ狭い範囲
2m	ブライトフレームの内側の辺で示される範囲
無限	ブライトフレームの幅で縦に約1つ分、横に約4つ分広い範囲

メモ

- ファインダーの中心には、ピント合わせ用の四角い測距枠が周辺よりも明るく表示されます。ピント合わせや露出について、詳しくは各項目をご参照ください。

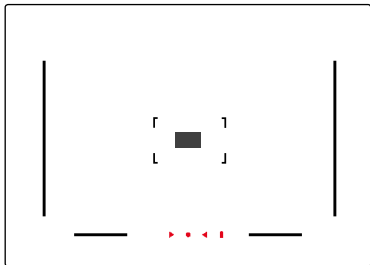
ブライフレーム (撮影範囲/焦点距離の選択肢) の表示

ブライフレームに対応するレンズは、焦点距離が28mm (シリアルナンバーが2411 001以降のエルマリート)、35mm、50mm、75mm、90mm、135mmのレンズです。これらのレンズを装着すると、28mmと90mm、35mmと135mm、50mmと75mmのブライフレームの組み合わせの中から焦点距離に対応した1組が自動的にファインダーに表示されます。フレームセクターは自動的に対応する位置に動き、

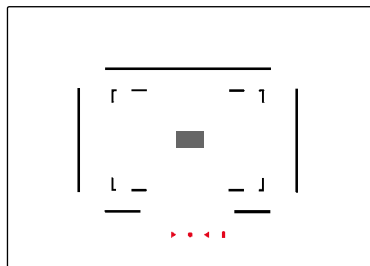
装着しているレンズにより異なるブライフレームが表示されます。焦点距離のシミュレーションができ、希望する撮影範囲に適したレンズを選ぶ際の参考になります。

- ▶ フレームセクターを希望する方向に動かす。
 - ・ フレームセクターは手を離すと自動的に元の位置に戻ります。

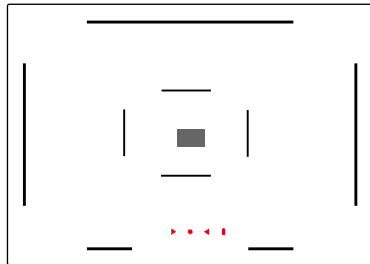
35mm + 135mm



50mm + 75mm



28mm + 90mm



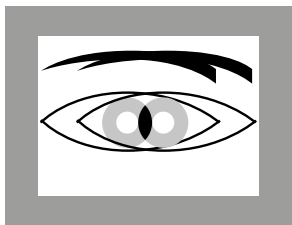
ピント合わせ

本機の距離計は有効基線長が長いので、高精度にピントを合わせることができます。ファインダーの中央に見える、明るく鮮明な長方形の部分が距離計の測距範囲です。

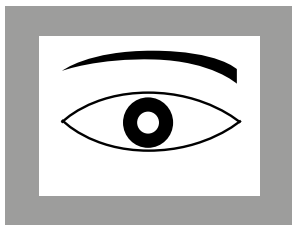
ピントを合わせるには、二重像合致式またはスプリットイメージ方式の2つの方法があります。

二重像合致式

ポートレートを撮影する場合は、被写体の目に測距枠を合わせ、目の輪郭が重なるまでフォーカスリングを回します。



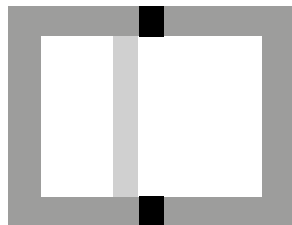
ピントが外れている



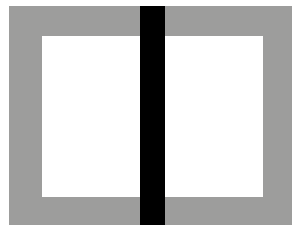
ピントが合っている

スプリットイメージ方式

建築撮影をする場合は、建物の縁などの垂直な線に測距枠を合わせ、枠内と枠外の境界線が一直線になるまでフォーカスリングを回します。



ピントが外れている



ピントが合っている

メモ

- 特に、画角が広く、被写界深度の比較的深度の深いレンズを使用する場合に、ピント合わせの精度の高さを実感できます。

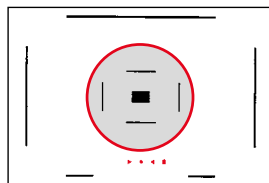


測光方式

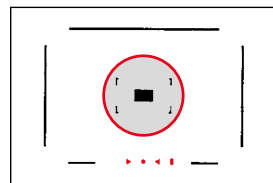
本機の測光方式は、シャッターの左上に配置されたフォトダイオードが、測光スポットから反射した光を集光レンズで捉える、実絞りによるTTLスポット測光です。測光スポット（直径12mm）はシャッター先幕の中央にあり、画面中央部が重点的に測光される中央重点測光方式です。円形測光域内の被写体のみ考慮されます（次ページ参照）。

メモ

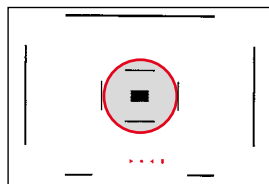
- 白いスポットのむらは、製造ミスから生まれたものではありません。厚みのある完璧なコーティングでは、シャッターが正常に機能せず、ゴム引き布幕シャッターに適していからです。したがって、測光スポットのむらは、決して測光結果に影響することはありません。



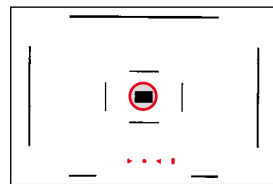
21 mm



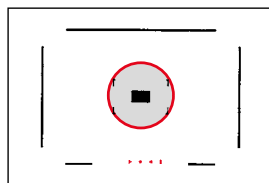
24 mm



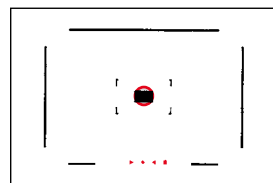
28 mm



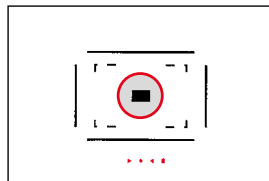
90 mm



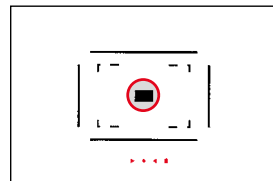
35 mm



135 mm



50 mm



75 mm

露出計

シャッターボタンを半押しすると露出計が起動します。半押し中は露出計が作動し、露出インジケーターがファインダーに表示されます。露出計は手を離れた後も約14秒間作動したままです。

メモ

- シャッタースピードダイヤルをBにした時は、露出計はオフとなり作動しません。
- シャッターがチャージされていない場合も同様に露出計は作動しません。
- 薄暗い場所（測光範囲の限界）などでは、LEDランプの点灯まで約0.2秒ほどかかることがあります。
- シャッターを切ると露出計も露出インジケーターの表示もオフになります。

露出設定

露出レベルがファインダーに表示されます。適正露出の場合、中央の丸いLEDだけが点灯します。

露出情報

以下の表示によって露出アンダー、露出オーバー、適正露出かが判断できます。表示に従ってシャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを回してください。

▶	最低1段露出アンダー
▶●	1/2段露出アンダー
●	適正露出
●◀	1/2段露出オーバー
◀	最低1段露出オーバー

メモ

- 測光枠内の光量が極端に少なく露出計の測光範囲を下回る場合は、ファインダー内で左の三角形のLED (▶) が点滅します。測光は実効絞りによって行われるので、レンズの絞り込み具合によって調整できます。



露出設定の難しい被写体

特に明るい又は暗い被写体

平均的な明るさの被写体では、通常、被写体に当たる光の18%が反射されま
す。露出計は、このような被写体の平均的な反射率に相当する、グレースケー
ルに合わせて調整されています。

例えば、白い部分の多い雪景色、明るい砂浜、白い壁、ウェディングドレスと
いった、反射率が18%以上の被写体を撮影する場合には、露出計の指示に従
ってシャッタースピードと絞りをセットすると、撮影結果は露出アンダーとな
ります。

対照的に、黒い部分の多い蒸気機関車、ダークグレーのスレート屋根、ダーク
ブルーのユニフォームといった、反射率が18%以下の被写体を撮影する場合
には、露出計の指示に従ってシャッタースピードと絞りをセットすると、撮影結
果は露出オーバーとなります。

このような状況で適正露出を得るには:

- スポット測光を用いて、平均的な明るさのディテール部分を測定する。
 - この場合は露出を補正する必要はありません。
- または露出計の数値をマニュアル補正する。



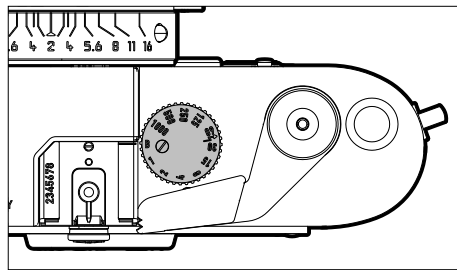
コントラストの強い被写体

撮影シーンの明るさの範囲は、最も明るい部分から最も暗い部分までのすべての明暗差を含みます。コントラストの強い被写体に対しては、フィルムのラチチュード（露出寛容度）は、その明暗の違いを再現できるほど広くありません。被写体のどの部分を鮮明に再現するかは、撮影者のお好み次第です。例えば、背景に露出を合わせて、人物を黒いシルエットで表現する（露出アンダーにする）こともできますし、人物に露出を合わせて、背景を白く飛ばす（露出オーバーにする）こともできます。明部と暗部の測定値から得た平均的な露出値を用いても、通常はそれぞれの微妙な明るさの違い（グラデーション：諧調）が失われて、満足できない撮影結果になります。また、意図的に露出オーバーや露出アンダーに撮影すると、写真の個性が強調される場合があります。ひとつの表現主題として効果的に利用してください。



バルブ撮影 (B)

シャッタースピードダイヤルをBにすると、バルブ撮影を行うことができます。シャッターボタンを押し続けている間はシャッターが開いた状態になります。



- ▶ シャッタースピードダイヤルをBに設定する。


メモ

- ・ シャッタースピードダイヤルをBにした時は、露出計はオフとなり作動しません。



フラッシュ撮影

本機には、フラッシュ制御機能は搭載されていません。したがって、フラッシュ撮影を行う場合は、フラッシュユニット側で制御（外部調光オート）するか、ガイドナンバー計算により、撮影距離に応じて絞りをセットしなければなりません。

フラッシュ撮影で使用できるシャッター速度は、シャッタースピードダイヤルに  で印された、フラッシュ同調速度の1/50秒です。

特殊な効果を表現するために、1/50秒以下の速度も使用できます。

対応フラッシュユニット

本機では標準のシンクロ接点（中央接点）を備えたフラッシュユニットが使用できます。サイリスタ制御式電子フラッシュユニットの使用をおすすめします。

注意

- 本機に対応していないフラッシュユニットを使用した場合、カメラおよびフラッシュユニットが破損するおそれがありますので、使用前に必ずご確認ください。

メモ

- 撮影前にフラッシュユニットの電源を入れ、撮影準備を完了してください。完了していないと、適正な露出が得られないおそれがあります。
- スタジオ用ストロボの発光時間は非常に長くなります。そのため、シャッタースピードをフラッシュ同調速度の1/50秒より遅く設定することをおすすめします。ワイヤレスでフラッシュを発光させる場合も、ワイヤレス通信によってタイムラグが起こる可能性があるため、フラッシュ同調速度よりも遅いシャッタースピードに設定することをおすすめします。



フラッシュユニットを接続する

本機には2種類のフラッシュ接続方式が選択できます。

- クリップオンタイプのフラッシュユニットを、中央接点付のホットシューに取り付ける
- シンクロコードを接続するシンクロターミナル（カメラ背面のホットシューのすぐ下）を使う

メモ

- ホットシュー、シンクロターミナルの2つ接点を使って、同時に複数のフラッシュユニットを発光させることもできます。
- カメラとフラッシュユニットの電源をオフにしてから、フラッシュユニットを取り付けてください。
- フラッシュユニットの使用法とその多彩な機能について、詳しくは各フラッシュユニットの取扱説明書をご覧ください。

ホットシューに取り付ける

フラッシュユニットを取り付ける

- ▶ カメラとフラッシュユニットの電源が切れていることを確認する。
- ▶ フラッシュユニットの取り付け部をホットシューにしっかり差し込む。
- ▶ ロックナットがあれば、ロックナットをしっかり締めて、不用意に外れないようにする。
 - フラッシュユニットがぐらついてしまうと、端子が破損し、フラッシュユニットが発光しなくなる恐れがあります。

フラッシュユニットを取り外す

- ▶ カメラとフラッシュユニットの電源が切れていることを確認する。
- ▶ ロックナットがあれば、ロックナットを緩める。
- ▶ フラッシュユニットを取り外す。

お手入れ/保管

本製品を長期間使用しない場合は、次のことをおすすめします：

- カメラの電源を切る
- 電池を取り出す

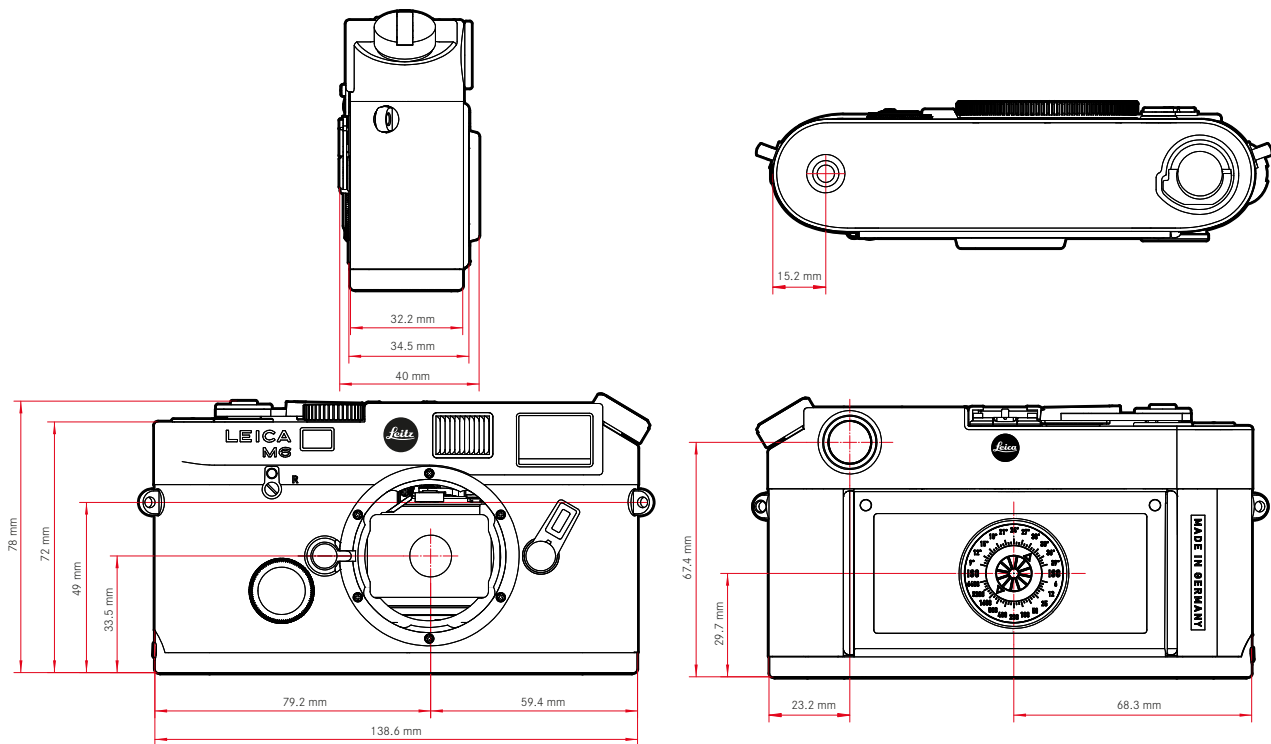
本体

- ・ 汚れはカビや細菌などの繁殖の原因となりますので、本製品を清潔に保ってください。
- ・ 本製品をお手入れする際は、乾いた柔らかい布をお使いください。ひどい汚れは、よく薄めたクリーナーなどを浸み込ませた布で拭いてから、乾いた布で拭き取ってください。
- ・ 海水がかかった場合は、柔らかい布を水道水で湿らせ、よく絞ってからカメラ本体を拭いてください。その後、乾いた布でよく拭いてください。
- ・ 指紋などの汚れは、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。布で拭き取りにくい隅の部分がひどく汚れている場合は、小さなブラシで取り除いてください。その際決してシャッターに触れないでください。
- ・ 破損やほこりから保護するために、クッション入りのケースに保管することをおすすめします。
- ・ カメラは、高温多湿を避け、乾燥した十分に換気された場所に保管してください。湿気が多い場所で使用した場合は、湿気をよく取り除いてから保管してください。
- ・ カビの発生を防ぐため、革製のケースにカメラを長期間入れて保管しないでください。
- ・ 収納しているケースが湿気を吸収した場合は、湿気そのものや湿気によって染み出るなめし剤によって、本製品が故障するのを防ぐために、本製品をケースに収納しないでください。
- ・ 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しない場合は、スムーズな動作を保つため、約3か月ごとに数回シャッターを切って動かしてください。また、その他の操作部もすべて定期的に動かすことをおすすめします。
- ・ 高温・多湿の熱帯地域で使用するとき、カビが発生するのを防ぐために、できるだけ多く日光や風に当ててください。密封ケースなどに保管するときは、シリカゲルなどの乾燥剤を入れてください。また、レザー製のケースに長期間収納したままにしないでください。

レンズ

- ・ レンズ表面についたホコリはまずブローアードで吹き飛ばし、それでも落ちない場合は柔らかいブラシを使って落としてください。汚れがひどい場合や指紋を取り除くには、クリーナーなど何も付けていない柔らかい清潔な布を使って、レンズの中央から外側に向かって円を描くようにして丁寧に拭き取ってください。使用する布には、ケースなどの保護容器に入っているマイクロファイバークロスをおすすめします（写真用品や光学機器の専門店で購入できます）。40°Cの温水で手洗いできるような布をおすすめします（ただし、柔軟剤の使用やアイロンがけは避けてください）。メガネ用クリーニング・ティッシュ等の化学成分を含んだ紙や布は、レンズ表面やコーティング層を傷める原因となりますので絶対に使用しないでください。
- ・ 砂や海水がかかるおそれのある場所で撮影する場合は、透明のUVフィルターを装着するとフロントレンズを保護できます。ただし、その他のフィルターと同様に、逆光での撮影ではフレアが発生することがありますのでお気をつけください。
- ・ レンズキャップを装着すると、不用意に指紋がついたり雨でぬれたりすることを防げます。
- ・ 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しない場合は、動作が鈍くならないよう、フォーカスリングと絞リングを定期的に動かしてください。
- ・ 露付きが起こった場合、電源を切り、常温の場所に約1時間置いてください。周囲の温度になじむと、曇りが自然に取れます。

ISO感度.....	23, 30	電池、容量.....	17
あ行		電池、注意事項.....	6, 8
アカデミー、ライカ.....	49	な行	
アクセサリー.....	3	二重像合致式.....	33
お手入れ.....	40	ノイズリダクション.....	37
か行		は行	
各部名称.....	12	廃棄.....	5
カスタマーケア.....	48	バルブ撮影.....	37
カメラ情報.....	5	ピント合わせ.....	33
感度、ISO.....	23, 30	ファインダー.....	16
キャリングストラップ.....	7, 18	フィルム巻き戻しクランク.....	24
さ行		付属品.....	2
サービスセンター.....	48	フラッシュ.....	38
撮影範囲.....	31	フラッシュユニット、互換性.....	38
撮影モード.....	30	法律に関する事項.....	4
シャッタースピードダイヤル.....	22	保管.....	40
シャッターボタン.....	22	保証.....	9
修理.....	48	本製品の取り扱いについて.....	8
焦点合わせ.....	33	ま行	
スプリットイメージ方式.....	33	巻き上げレバー.....	23
スペアアクセサリー.....	3	名称、一覧.....	12
測距方式、レンジファインダー.....	33	ら行	
た行		ライカ アカデミー.....	49
注意事項.....	6	レリーズ.....	22
長時間露光.....	37	レンジファインダー.....	31
著作権と商標について.....	4	レンズ.....	6, 19, 40
テクニカルデータ.....	44	連絡先、ライカ.....	48
		露出.....	34
		露出レベル.....	35



カメラ

名称

ライカ M6

形式

アナログレンジファインダーシステムカメラ (35mm)

型番

2248

商品コード

ブラック：10557

材質

密閉型金属製 (開閉式裏ぶた付き)

本体上面、底蓋：真鍮製、ブラックペイント仕上げ

レンズマウント

ライカ Mマウント

動作環境

0° C~+40° C

インターフェース

ホットシュー (ISO規格)

三脚用ねじ穴

A 1/4 (1/4インチ、DIN4503に準拠)、合金製

質量

575g (電池含まず)

ファインダー

ファインダー

大型ブライトフレームレンジファインダー (パララックス自動補正機能付き)

視度：-0.5dpt、視度補正レンズ-3~+3dpt (別売) が装着可能

フレーミング

フレーミング：2フレーム1組：35mm + 135mm用、28mm + 90mm用、50mm + 75mm用 (レンズ装着時に自動切替)

他のフレーミング又はブライトフレームが表示可能

パララックス補正

ファインダー、レンズ間に生じる水平方向と垂直方向のパララックスを、ピント合わせの際に自動的に補正 (ブライトフレームの表示範囲と撮影範囲が自動的に一致)

ファインダー倍率

0.72倍 (全レンズ共通)

有効基線長

49.9mm : 69.25mm (実質基線長) x 0.72倍 (ファインダー倍率)

ファインダー内表示画像と撮影範囲:

ブライトフレームサイズは、各焦点距離の最短撮影距離で約23x35mmの画像サイズに相当。無限遠に設定時：ブライトフレームサイズよりも約9% (28mm) ~23% (135mm) 大きい範囲 (焦点距離によって異なる)

大口径レンジファインダー

スプリットイメージ方式または二重像合致式 (ファインダーの中心部の測距枠内にて)

シャッター

シャッター方式

水平走行式ゴム引き布幕フォーカルプレーンシャッター、メカニカル制御式、極めて静かな作動音

シャッタースピード

フォーカルプレーンシャッター：1秒~1/1000秒

フラッシュ同調速度：~1/50秒

シャッターボタン

2段式

(1段目：露出計起動、2段目：レリーズ)

標準ケーブルレリーズ用ねじ穴付き

フィルム

巻き上げ

巻き上げレバーまたはライカピットM (別売) による手動巻き上げ、ライカモーターM、ライカファインダーM、ライカファインダーM4-R、ライカファインダーM4-2、(全て別売) による自動巻き上げ

巻き戻し

本体前面の巻き戻し解除レバーをR方向に移動後、フィルム巻き戻しクランクによる手動巻き戻し。

フィルムカウンター

本体上面に装備

底蓋を取り外した際に自動リセット

ピント合わせ**合焦範囲**

70cm \sim ∞

フォーカスモード

マニュアル

露出**測光**

TTL測光 (レンズの実絞りによる測光)

受光素子

凸レンズを搭載したシリコンフォトダイオード (バヨネット裏側左上)

フィルム使用感度域

ISO 6/9° \sim ISO 6400/39° 間でマニュアル設定

測光形式

シャッター幕に反射した光量を計測する方式のスポット測光

測光点の直径: 12mm (ネガフォーマット全体の約13%、またはレンジファインダーのブライトフレーム短辺の約2/3に相当)

測光範囲

測光可能範囲以下の場合、レンジファインダー内左側の三角のLEDが点滅

露出モード

マニュアル露出。シャッタースピードと絞り値とISO感度を手動で設定

露出インジケーターによる露出レベルの確認

フラッシュ発光制御**フラッシュユニットの接続**

ホットシュー (中央接点装備)、シンクロ端子

フラッシュ同調

先幕シンクロ

フラッシュ同調速度

f=1/50秒より遅いシャッタースピードが使用可能

フラッシュ測光方式

接続フラッシュユニットによる外部自動調光またはガイドナンバー計算による絞り値の手動設定

電源

酸化銀ボタン電池 (PX76/SR44) 2個またはリチウムボタン電池 (DL1/3N) 1個
新しい電池を使用時: 室温下1回14秒の測光時間で、36枚撮りフィルム約100本 (約3600回の露出) が可能 (弊社試験規格による)

ライカ カスタマーケア

お手持ちの製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーケア、またはお近くのライカ正規販売店までご相談ください。

ライカカメラジャパン株式会社

カスタマーケア

東京都中央区銀座6-4-1 ライカ銀座店内

Tel.: 03-6215-7072

Fax: 03-6215-7073

E-mail: info@leica-camera.co.jp

ライカカメラ本社 (ドイツ)

Leica Camera AG

Leica Customer Care

Am Leitz-Park 5

35578 Wetzlar

ドイツ

Telefon: +49 6441 2080-189

Fax: +49 6441 2080-339

E-mail: customer.care@leica-camera.com

<https://leica-camera.com>

各国のカスタマーサポートセンター

お客様のお住まいの地域を担当するカスタマーケアについては、以下のホームページでご確認いただけます。

<https://leica-camera.com/ja-JP/contact>

ライカ デジタルサポートセンター

<使用方法等技術的なお問い合わせ窓口>

Tel.: 0120-03-5508

受付時間: 月曜日 - 金曜日 9:30 - 18:00

祝祭日は受け付けておりません。

ライカ アカデミー

ライカアカデミーでは写真撮影に役立つ各種セミナーやワークショップを開催しています。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<https://leica-camera.com/ja-JP/raikaakatemi>